

成功する人は本を読む

私を動かした
この一冊

BOOK

40代からも守りに入らず 「攻め続ける人生」を



蟹江 脩礼氏

(株)すずや
代表取締役

1975年生まれ。東京都出身。23歳の時に、神奈川・溝の口に1号店となる『すずや』本店を出店する。神奈川・川崎市内を中心にドミナント展開。人情味があり地元にも愛される店づくりを目指し、現在、地域に密着した居酒屋を5店舗経営する。特に「地産地消」の取り組みに注力し、「売り」である地場野菜は市内の契約農家まで毎日足を運んで自身で仕入れを行なうなど、「生産者→飲食店→消費者」と直結した安心感のある食材の提供に努めている。地元でファンを掴みながら、長年商売を続ける「居酒屋のおやじ」を永遠のテーマに日々奮闘中。

今年で42歳になる自分にとってドンピシャなタイトルにひかれ、手に取った一冊です。

著者は本書のまえがきで「42歳というのは人生のターニングポイントの年齢だ」と言っています。さらには「守りの人生」か「攻め続ける人生」かの二者択一により人生は180度違ったものになると続けています。

そして、「守りの人生」は失点は少ない。しかし、同時に得点も見込めない人生だ。「攻め続ける人生」はリスクと表裏一体だが、得点を上げるチャンスは確実に増える、と説いています。何とも感慨深く、いまの自分自身にグサツと突き刺さる言葉でした。

確かに40歳を超えると守るべきことが多くなり、事を慎重に運ばせようという意識が

高まります。そして、年齢と共に積んできた経験値によって、ある程度のことは先読みできるようになることで予測のつくリスクを避けようと臆病になりがちです。私自身もそうしたことで「攻めきれないな」と感じるこれがここ最近ありました。

それは、昨今の飲食業界では深刻な問題となっている人材不足に関連する諸問題についてです。スタッフに辞められたら困るという心情がどこかにあり、踏み込んだ指導や話し合いが足りないなど感じるものが時にあります。そうなれば結果として上辺だけの人間関係となり、思い描くより良い店づくりができなくなります。

本来ならば語り合い、お互いを理解し合うことで深い人間

関係を構築し、共に同じ方向性を向くことができるのに……。その重要性が解っていないながら、知らず知らずのうちに現状維持をしようという「守り」に入っているのかもしれない。

本書では私が直面しているような悩みを吹き飛ばす「攻め続ける人生」の攻略法が事例と共に書かれています。日本人の平均寿命を80歳とする、ようやく半分を生きたにすぎません。ぜひともこの攻略法を身に着け、チャレンジ精神を奮い起こしてやりがいを感じ、成長を実感できる人生を歩みたいものです。

本書は42歳という年齢に限らず、「これから自分はどこを目指していくのか?」という悩みを持つ人にとって、数多くのヒントを得られる一冊になると思います。



『あたりまえだけどなかなかできない
42歳からのルール』

田中和彦／著

明日香出版社 1400円＋税

「仕事も遊びも、40代からが一番おもしろい」と説く著者。働き方や学び、遊び、挑戦といった10のテーマで40代からの人生をより豊かにするための「ルール」を綴る。

※この連載では、読書家の経営者やシェフの方が、毎月リレー形式で、感銘を受けた本、商売や経営のあり方、生き方に影響を与えた本を紹介しています。